

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500404		
法人名	栄寿会 合同会社		
事業所名	グループホームぽかぽか(ゆずユニット)		
所在地	大分県佐伯市弥生大字江良1451-1		
自己評価作成日	令和8年5月4日	評価結果市町村受理日	令和8年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおい
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和8年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の主体性を重視し、利用者様お一人おひとりに合わせた個別イベントを行うなど、その方の想いに寄り添うケアの実践を行ってきました。また、地域と一緒に利用者様を支えていけるよう、地域のイベントには利用者様と一緒に参加をしたり、回覧板やSNSで施設の取り組みの発信を行うなど、地域に根ざした施設づくりに取り組んでいます。利用者様が安心して過ごしていただけるよう協力医療機関と24時間、365日の連絡体制を整えており、医療面での支援も充実させています。職員には外部研修への参加や資格取得のサポートを行うなど、スキルアップの向上や人材育成にも注力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・職員は「自分らしく生きられるように」という事業所理念を共有しながら、利用者一人ひとりの希望に寄り添った支援につなげている。
- ・外出支援に力を入れている。日課の散歩途中で、地域の人と挨拶や会話を交わすなど交流している。フェリーに乗って離島へ日帰り旅行したり、かつての職場訪問など、利用者の希望に沿った支援を行っている。
- ・三食とも、手作りの食事を利用者や職員と一緒に作っている。
- ・職員の資格取得やスキルアップを積極的に支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット休憩室、フロアに掲示しており、毎日朝礼時に理念を読んでいる。新任研修には必ず理念に基づいた研修を行い、定期的に職員研修を行う事で実践に繋げている。	「その人が自分らしく生きられるよう応援、支援する」という理念をつくっている。職員は日常的に理念を振り返りながら、理念に沿ったケアの実践につなげている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動やお祭りなど、利用者様も一緒に参加していただき、地域の方との交流を深めている。また、日常的に散歩を行うなど、地域との繋がりが途絶えないように努めている。	事業所の取り組みや活動内容を、地域の人々に知ってもらうため、広報誌を定期的に地域へ回覧している。散歩中にあいさつや言葉を交わす等、日常的な交流が少しずつ増えている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、施設で行っている認知症ケアの事例や研修内容などお伝えし、地域の方へ認知症の理解を深めている。また、回覧板に事業所便りを掲載し、日々の取り組みを紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、施設での取り組みや状況等報告している。ご家族や地域の意見を朝礼や職員会議で共有し、サービスの向上に努めている。	年6回、開催される運営推進会議には、地域の代表者や複数の利用者や家族の参加がある。実践状況を報告しながら、出された意見をサービス向上に活かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは積極的に連絡するように努めており、利用者様の事や制度の事など、必要時にはアドバイスを受けるなど、協力体制を築くよう努めている。	市担当者へ、事業所の実践状況を積極的に伝えている。相談や質問がある時も、迅速に対応してくれるなど、協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、定期的に研修を行っている。夜間帯以外は玄関の施錠を行わないなど、職員全体で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	年1回職員研修を行っている。外部の研修会にも毎年1名以上が参加し、全職員で、本人の思いに寄り添ったケアの大切さを共有しながら、身体拘束しないケアに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の他に外部研修にも参加するなど、学ぶ機会を設けている。定期的に虐待防止についてのチェックリストを配布し、虐待を未然に防げるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し権利擁護を学ぶ機会を設けており、会議でも職員全体に周知している。必要時には関係者と話し合いを行うなどして支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には項目ごとに説明を行い不明な点がないか確認し、ご理解・ご納得を得たうえで改定を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者様や家族様の意見を必ずいただいております。意見箱の設置もしています。会議で職員全体に周知し、運営に反映させるように努めています。	定期的に、利用者の様子を報告している。SNSを活用し、家族が日常の様子を確認できるようにしており、面会時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、無記名で記入する事ができる気づきノートを用いて会議で検討するなど、意見が反映しやすい環境を作っている。	日々のケアの中での気づきをノートに記録し共有している。全職員で検討する機会をつくり、運営に反映させている。勤務体制や資格取得など、職員の希望を取り入れるよう努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用や資格取得費は事業所で負担し、職員のスキルアップや向上心を持ち業務に取り組めるようにしている。また、職員の生活環境に応じた労働時間や休日など設定しており、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実績と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修以外の研修を年に1回は受ける機会を設けている。外部研修では職員の力量に応じた内容の研修を受けれるようにしており、スキルアップに繋げている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修に参加したり、施設見学を行うなど交流する機会を作っている。職員にもその内容を伝え、サービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には必ずご本人と面談を行い意向をお伺いしている。希望される方には入所前に施設見学をしていただき、他利用者様と交流する機会を作るなど、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での過ごし方、困りごと、不安な事などお伺いしている。そのうえで安心して施設で生活できるよう要望などを話しあい、信頼関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と必ず面談を行い、ご本人の状況やご家族の状況を把握し、必要としている支援の見極めを行っている。必要時には他のサービスや他事業所の説明や見学もお勧めしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの能力に合わせた役割割りを持っていただいている。また、利用者様から職員に教えていただく機会を設け、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連絡を行い、ご本人の日々の様子をお伝えしている。また、面会以外でも外出や外泊など、ご家族と一緒に過ごす時間を持っていただき、共にご本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行っていたいたり、昔の職場やご自宅に外出をしていただき知人の方と交流を行うなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。また、ご家族以外の方が面会に来れるよう受け入れも行っている。	家族の面会も多く、職員は本人が大切にしてきた馴染みの関係の把握に努めている。ふるさと訪問や職場訪問、外泊など、家族の協力もあり、馴染みの関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と席を近くにするなど、必要時には席替えを行っている。また、別ユニットの利用者様とも関りが持てるよう、ユニット間の移動も日常的に行っている。レクレーションやお手伝いを通じ、利用者間で協力できる環境づくりにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時には相談や支援を行っている。退所後もご家族やご本人が施設に訪問に来られるなど、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人おひとりに担当職員がおり、毎月ご本人の意向や希望など伺いシートに記入している。その方の希望に合わせた個別のイベントも行っており、意思疎通が困難な場合はご家族様にも意見をお聞きしている。	これまでの生活歴を家族より聞き取り、フェイスシートに記入している、さらに日々の暮らしの中で聞き取った言葉や表情から、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にはご本人・ご家族と面談、アセスメントを行っている。他ぞ行書のサービスを利用している場合には事業所での様子を見学に行ったり、情報の共有を行うなど経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りで生活の把握を行い、全体会議でもその方に応じた支援の内容・方法を共有している。訪問看護とも情報共有を行い、チーム全体で現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の全体会議で課題の抽出やケアの統一を行っている。ご本人やご家族の意向や意見も伺いプランに反映させている。必要時にはプランの見直しや変更もを行っている。	本人や家族の意向をもとに、自分らしく暮らしていくことを目標に、介護計画を作成している。2か月ごとにモニタリングを行い、現状に即した計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の担当職員が気づきや工夫、統一してほしいケアなどシートに記入している。全体会議で情報を共有し、統一したケアの実践やプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じ在宅復帰の支援を行うなど、その時々合わせたニーズに対応している。必要時にはその方に合ったサービスを提案するなど、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動や避難訓練には利用者様も参加していただき、何かある時は声をかけていただくなど、地域の方と一緒に利用者様を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医であった病院や、ご本人やご家族が希望される病院に受診していただくなど、かかりつけ医を選んでいただく事ができる。受診時には情報共有を行い、必要時には電話連絡を行うなど、適切な医療を受けられるようにしている。	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。通院介助の際には、家族等、関係者と情報の共有、連携を行っている。協力医療機関と24時間の連絡体制が整えられている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との医療連携を図り、週に1回の看護師訪問時には利用者様の様子をお伝えし、相談や助言をいただいている。24時間の連絡体制も整っており、いつでも適切な受診や看護が受けれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入所中の様子など医療機関と情報共有を行い、入院中にも情報交換を行い必要時には面会に行くなど、早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期についての説明を行い意向をお伺いしている。重度化した場合には主治医同席のもと話し合いを行い、支援の方針を決定している。職員全体でも情報共有を行い、事業所全体でその方を支えていけるように支援している。	重度化、終末期の指針についての文書を作成している。入居時や状態の変化に応じて話し合いを重ねながら、関係者全員で方針の共有を図り、支援している。事業所での看取りの経験もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えてマニュアルを作成しており、全体会議でマニュアルの確認も行っている。職員研修も定期的に開催し、速やかな対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、年に1回は消防署立ち合いのもと通報訓練も行っている。施設が避難所としても利用できるよう、発電機や寝具類、食料品の備蓄も行っている。	地震や夜間の火災など、様々な想定のもと、利用者と一緒に避難訓練をしている。大雨での避難経験を活かして、今後の災害対策について話し合いを行っている。	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には目線を合わせ丁寧語で声かけを行うなど、その方の人格を大切にしている。居室は個室となっており、訪問時には必ず声かけを行いプライバシーを損ねないように対応を心がけている。	職員は、研修や事業所の理念より、その人らしい尊厳を守ることが理解している。プライバシーを損ねないような対応や言葉かけに努め、月1回の会議で振り返りの時間を作っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ飲み物はメニュー表を作成し、自己決定の支援を行っている。日常の会話からその方の希望を伺い、職員と1対1で会話する時間を持っていたくなど、利用者様が思いを伝えやすい環境作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、入浴日は入浴時間を決めておらず、お一人おひとりのペースに合わせている。希望された時に外出していただくなど、その方の希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と買い物に行き、衣類や靴などご本人に選んでいただいている。散髪以外にもパーマやカラーをしていただいたり、お化粧やマニキュアなど、その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けなど、利用者様と職員で一緒に行っている。外食に行ったり、その方の好きな物を誕生日に提供するなど、食事を楽しむ事ができるように支援している。	三食とも手作りの食事を提供している。魚を捌いたり、ピザづくりなど、利用者と職員が一緒に行っている。ノンアルコールビールで晩酌するなど、食事が楽しみなものになるように支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録に食事量や水分量を記載し、職員全体で把握できるようにしている。個人用の急須やお茶の葉を持たれている方もおり、食事や水分量が確保できるよう工夫している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っていただき、ご自身で磨くのが困難な方に対しては職員が介助している。必要時には歯科受診を行い、口腔衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握している。全体会議でパットやリハパンが適切なのかの話し合いを行い、排泄の訴えがない方に対して定期的にトイレの声かけを行う事で排泄に感覚を取り戻していただくなど、自立に向けた支援も行っている。	トイレでの排泄を基本として支援している。それぞれの排泄パターンを記録し、一人ひとりのタイミングに合わせて声かけや誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前、午後に全体での体操を行い近所の神社まで散歩に行くなど運動する機会を持っていたりしている。朝礼時には排便状況を報告し、必要な方には排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を決めておらず、お一人おひとりの希望に合わせて入浴していただいている。温泉に外出したり、月に1回入浴剤を使用するなど、入浴を楽しむ事ができるよう支援している。	一人ひとりの希望やタイミングに合わせて支援している。毎日入浴する人や、入浴を嫌がる人も週2回以上の入浴となっている。入浴剤やゆず湯など、入浴を楽しむ工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めておらず、その方に合わせて休んでいただいている。自宅での寝具を使用していただいたり、居室の電気の明るさもその方に合わせるなど、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は担当利用者様の内服薬を把握しており、各利用者様の薬情もファイリングし、いつでも職員が閲覧できるようにしている。服薬変更の際は朝礼や申し送りノートにて職員全体で周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事など、お一人おひとりに合わせた役割を持っていたりしている。外食や買い物、ドライブなどの外出も行っており、希望される方には、タバコやお酒などの嗜好品も提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中から希望を伺い、外出できるようにしている。ご家族の協力のもと、外食や旅行、一時帰宅も行っている。お花見など季節のイベントに合わせて外出できるようにも支援している。	玄関前に椅子やソファを置き、おやつを食べたり、いつでも外気を楽しむことが出来る。近くの神社までの散歩を日課にしている。フェリーに乗って離島へ日帰り旅行に行くなど、利用者の希望に沿った外出支援をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご自身でお金の管理をされている方もおり、施設で管理している方に対しても一緒に買い物に行き希望される物を購入していただくなど、その方の希望や能力に合わせて金銭管理やお金が使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方に対して、施設の電話で知人の方やご家族とお話する機会を持っていたいている。携帯電話を所持されている方もおり、いつでも連絡ができるようにしている。ご家族には年賀状や暑中見舞いを送るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は冷暖房を完備しており、適切な温度調整ができるよう温度計を置いている。季節の飾りや壁画作成を行うなど、四季を感じていただけるように工夫しており、浴室にはのれんを掛けるなど、心地の良い空間作りに努めている。	リビングは静かで、テレビの音も不快にならないよう調整されている。新聞を読む人や調理を楽しむ人、自室で過ごす人など、思い思いにくつろいでいる。レクリエーション活動時の写真や季節感のある作品を壁に掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にソファを置き、気の合う利用者様と一緒に過ごしたり、お一人でも過ごせるようにしている。また、玄関先にも椅子を設置しており、お一人おひとりが過ごしやすい環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自宅で使用していたソファやテレビなどの家具を置いたり、ご家族との写真や花を飾られるなど、使い慣れた物や好みの物を活かし、心地よく過ごせるよう工夫をしている。	ベッド脇のハンガーラックに洋服を掛けたり、家族写真やペットのぬいぐるみなど、好みのものや安心できるものを活かして、その人らしさが見える居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉には「トイレ」「便所」と記載しており、居室の扉には名前を貼ったりや造花を飾るなど、その方の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。必要な方には居室内にマットを置くなど、安全面にも配慮している。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490500404		
法人名	栄寿会 合同会社		
事業所名	グループホームぽかぽか(さくらユニット)		
所在地	大分県佐伯市弥生大字江良1451-1		
自己評価作成日	令和8年5月4日	評価結果市町村受理日	令和8年7月7日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号
訪問調査日	令和8年6月4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者様の主体性を重視し、利用者様お一人おひとりに合わせた個別イベントを行うなど、その方の想いに寄り添うケアの実践を行ってきました。また、地域と一緒に利用者様を支えていけるよう、地域のイベントには利用者様と一緒に参加をしたり、回覧板やSNSで施設の取り組みの発信を行うなど、地域に根ざした施設づくりに取り組んでいます。利用者様が安心して過ごしていただけるよう協力医療機関と24時間、365日の連絡体制を整えており、医療面での支援も充実させています。職員には外部研修への参加や資格取得のサポートを行うなど、スキルアップの向上や人材育成にも注力しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

【グループホームぽかぽか(ゆずユニット)に記載】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は各ユニット休憩室、フロアに掲示しており、毎日朝礼時に理念を読んでいる。新任研修には必ず理念に基づいた研修を行い、定期的に職員研修を行う事で実践に繋げている。	ゆずユニット同様		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の清掃活動やお祭りなど、利用者様も一緒に参加していただき、地域の方との交流を深めている。また、日常的に散歩を行うなど、地域との繋がりが途絶えないように努めている。	ゆずユニット同様		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議にて、施設で行っている認知症ケアの事例や研修内容などお伝えし、地域の方へ認知症の理解を深めている。また、回覧板に事業所便りを掲載し、日々の取り組みを紹介している。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、施設での取り組みや状況等報告している。ご家族や地域の意見を朝礼や職員会議で共有し、サービスの向上に努めている。	ゆずユニット同様		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	担当者とは積極的に連絡するように努めており、利用者様の事や制度の事など、必要時にはアドバイスを受けるなど、協力体制を築くよう努めている。	ゆずユニット同様		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設け、定期的に研修を行っている。夜間帯以外は玄関の施錠を行わないなど、職員全体で身体拘束をしないケアの実践に取り組んでいる。	ゆずユニット同様		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修の他に外部研修にも参加するなど、学ぶ機会を設けている。定期的に虐待防止についてのチェックリストを配布し、虐待を未然に防げるよう努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に参加し権利擁護を学ぶ機会を設けており、会議でも職員全体に周知している。必要時には関係者と話し合いを行うなどして支援に繋げている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には項目ごとに説明を行い不明な点がないか確認し、ご理解・ご納得を得たうえで改定を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では利用者様や家族様の意見を必ずいただいております。意見箱の設置もしています。会議で職員全体に周知し、運営に反映させるように努めている。	ゆずユニット同様	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	半年に1回面談を行い、職員の意見や提案を聞く機会を設けている。また、無記名で記入する事ができる気づきノートを用いて会議で検討するなど、意見が反映しやすい環境を作っている。	ゆずユニット同様	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修費用や資格取得費は事業所で負担し、職員のスキルアップや向上心を持ち業務に取り組めるようにしている。また、職員の生活環境に応じた労働時間や休日など設定しており、働きやすい環境作りに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修以外の研修を年に1回は受ける機会を設けている。外部研修では職員の力量に応じた内容の研修を受けれるようにしており、スキルアップに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の研修に参加したり、施設見学を行うなど交流する機会を作っている。職員にもその内容を伝え、サービスの質の向上に繋がるよう努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には必ずご本人と面談を行い意向をお伺いしている。希望される方には入所前に施設見学をしていただき、他利用者様と交流する機会を作るなど、安心できる関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家庭での過ごし方、困りごと、不安な事などお伺いしている。そのうえで安心して施設で生活できるよう要望などを話しあい、信頼関係作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族と必ず面談を行い、ご本人の状況やご家族の状況を把握し、必要としている支援の見極めを行っている。必要時には他のサービスや他事業所の説明や見学もお勧めしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人おひとりの能力に合わせた役割割りを持っていただいている。また、利用者様から職員に教えていただく機会を設け、共に支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族とは密に連絡を行い、ご本人の日々の様子をお伝えしている。また、面会以外でも外出や外泊など、ご家族と一緒に過ごす時間を持っていただき、共にご本人を支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院に行っていたいたり、昔の職場やご自宅に外出をしていただき知人の方と交流を行うなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないようにしている。また、ご家族以外の方が面会に来れるよう受け入れも行っている。	ゆずユニット同様	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方と席を近くにするなど、必要時には席替えを行っている。また、別ユニットの利用者様とも関りが持てるよう、ユニット間の移動も日常的に行っている。レクレーションやお手伝いを通じ、利用者間で協力できる環境づくりにも努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要時には相談や支援を行っている。退所後もご家族やご本人が施設に訪問に来られるなど、これまでの関係性を大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様お一人おひとりに担当職員がおり、毎月ご本人の意向や希望など伺いシートに記入している。その方の希望に合わせた個別のイベントも行っており、意思疎通が困難な場合はご家族様にも意見をお聞きしている。	ゆずユニット同様	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にはご本人・ご家族と面談、アセスメントを行っている。他ぞ行書のサービスを利用している場合には事業所での様子を見学に行ったり、情報の共有を行うなど経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の記録や申し送りで生活の把握を行い、全体会議でもその方に応じた支援の内容・方法を共有している。訪問看護とも情報共有を行い、チーム全体で現状の把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月に1回の全体会議で課題の抽出やケアの統一を行っている。ご本人やご家族の意向や意見も伺いプランに反映させている。必要時にはプランの見直しや変更も行っている。	ゆずユニット同様	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の担当職員が気づきや工夫、統一してほしいケアなどシートに記入している。全体会議で情報を共有し、統一したケアの実践やプランの見直しに活かしている。		

事業者名:グループホームぽかぽか(さくらユニット)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の状況に応じた在宅復帰の支援を行うなど、その時々合わせたニーズに対応している。必要時にはその方に合ったサービスを提案するなど、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の清掃活動や避難訓練には利用者様も参加していただき、何かある時は声をかけていただくなど、地域の方と一緒に利用者様を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医であった病院や、ご本人やご家族が希望される病院に受診していただくなど、かかりつけ医を選んでいただく事ができる。受診時には情報共有を行い、必要時には電話連絡を行うなど、適切な医療を受けられるようにしている。	ゆずユニット同様	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との医療連携を図り、週に1回の看護師訪問時には利用者様の様子をお伝えし、相談や助言をいただいている。24時間の連絡体制も整っており、いつでも適切な受診や看護が受けれるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入所中の様子など医療機関と情報共有を行い、入院中にも情報交換を行い必要時には面会に行くなど、早期退院に向けた話し合いを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に重度化や終末期についての説明を行い意向をお伺いしている。重度化した場合には主治医同席のもと話し合いを行い、支援の方針を決定している。職員全体でも情報共有を行い、事業所全体でその方を支えていけるように支援している。	ゆずユニット同様	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備えてマニュアルを作成しており、全体会議でマニュアルの確認も行っている。職員研修も定期的開催し、速やかな対応ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回避難訓練を行い、年に1回は消防署立ち合いのもと通報訓練も行っている。施設が避難所としても利用できるよう、発電機や寝具類、食料品の備蓄も行っている。	ゆずユニット同様	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様には目線を合わせ丁寧語で声かけを行うなど、その方の人格を大切にしている。居室は個室となっており、訪問時には必ず声かけを行いプライバシーを損ねないよう対応を心がけている。	ゆずユニット同様	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	おやつ飲み物はメニュー表を作成し、自己決定の支援を行っている。日常の会話からその方の希望を伺い、職員と1対1で会話する時間を持っていたくなど、利用者様が思いを伝えやすい環境作りにも努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	起床時間や就寝時間、入浴日は入浴時間を決めておらず、お一人おひとりのペースに合わせている。希望された時に外出していただくなど、その方の希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と買い物に行き、衣類や靴などご本人に選んでいただいている。散髪以外にもパーマやカラーをしていただいたり、お化粧やマニキュアなど、その人らしい身だしなみやおしゃれができるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事作りや片付けなど、利用者様と職員で一緒に行っている。外食に行ったり、その方の好きな物を誕生日に提供するなど、食事を楽しむ事ができるように支援している。	ゆずユニット同様	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の記録に食事量や水分量を記載し、職員全体で把握できるようにしている。個人用の急須やお茶の葉を持たれている方もおり、食事や水分量が確保できるよう工夫している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行っていただき、ご自身で磨くのが困難な方に対しては職員が介助している。必要時には歯科受診を行い、口腔衛生に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を活用し、排泄パターンを把握している。全体会議でパットやリハパンが適切なのかの話合いを行い、排泄の訴えがない方に対して定期的にトイレの声かけを行う事で排泄に感覚を取り戻していただくなど、自立に向けた支援も行っている。	ゆずユニット同様	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日午前、午後に全体での体操を行い近所の神社まで散歩に行くなど運動する機会を持っていたい。朝礼時には排便状況を報告し、必要な方には排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日や入浴時間を決めておらず、お一人おひとりの希望に合わせて入浴していただいている。温泉に外出したり、月に1回入浴剤を使用するなど、入浴を楽しむ事ができるよう支援している。	ゆずユニット同様	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間を決めておらず、その方に合わせて休んでいただいている。自宅での寝具を使用していただいたり、居室の電気の明るさもその方に合わせるなど、安心して眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は担当利用者様の内服薬を把握しており、各利用者様の薬情もファイリングし、いつでも職員が閲覧できるようにしている。服薬変更の際は朝礼や申し送りノートにて職員全体で周知徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その方の得意な事など、お一人おひとりに合わせた役割を持っていたい。外食や買い物、ドライブなどの外出も行っており、希望される方には、タバコやお酒などの嗜好品も提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日々の会話の中から希望を伺い、外出できるようにしている。ご家族の協力のもと、外食や旅行、一時帰宅も行っている。お花見など季節のイベントに合わせて外出できるようにも支援している。	ゆずユニット同様	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額ではあるがご自身でお金の管理をされている方もおり、施設で管理している方に対しても一緒に買い物に行き希望される物を購入していただくなど、その方の希望や能力に合わせて金銭管理やお金が使える支援を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望される方に対して、施設の電話で知人の方やご家族とお話する機会を持っていたいている。携帯電話を所持されている方もおり、いつでも連絡ができるようにしている。ご家族には年賀状や暑中見舞いを送るなどしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用部分は冷暖房を完備しており、適切な温度調整ができるよう温度計を置いている。季節の飾りや壁画作成を行うなど、四季を感じていただけるように工夫しており、浴室にはのれんを掛けるなど、心地の良い空間作りに努めている。	ゆずユニット同様	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用部分にソファを置き、気の合う利用者様と一緒に過ごしたり、お一人でも過ごせるようにしている。また、玄関先にも椅子を設置しており、お一人おひとりが過ごしやすい環境作りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に自宅で使用していたソファやテレビなどの家具を置いたり、ご家族との写真や花を飾られるなど、使い慣れた物や好みの物を活かし、心地よく過ごせるよう工夫をしている。	ゆずユニット同様	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの扉には「トイレ」「便所」と記載しており、居室の扉には名前を貼ったりや造花を飾るなど、その方の「できること」「わかること」を活かし、自立した生活が送れるよう工夫している。必要な方には居室内にマットを置くなど、安全面にも配慮している。		